

令和6年度事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

学校法人 上宮学園

上宮学園中学校

上宮高等学校

上宮太子高等学校

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか130年であるが、その130年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ、巣立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようだが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものだ。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤めれば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味である。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を 多くの若者に分け与えて、130年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治 23 年(1890 年)浄土宗を母胎として創立された。以来 130 年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治 23 年(1890 年)大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治 34 年(1901 年)学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更

明治 39 年(1906 年)中学校と同等の認定

明治 45 年(1912 年)財団法人上宮中学校設立許可

昭和 4 年(1929 年)鉄筋本館竣工

昭和 10 年(1935 年)定員 1250 名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和 14 年(1939 年)新校舎(現 2・3・4 号館)竣工

昭和 22 年(1947 年)新制上宮中学校発足

昭和 23 年(1948 年)新制上宮高等学校発足

昭和 26 年(1951 年)学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和 36 年(1961 年)校祖 750 年遠忌式

昭和 38 年(1963 年)高等学校志願者 5259 名に達す 5 号館竣工

昭和 42 年(1967 年)中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和 44 年(1969 年)太子町校舎高 1 授業開始

昭和 49 年(1974 年)高 2 2 コース制実施

昭和 54 年(1979 年)太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和 56 年(1981 年)総合体育館竣工式 90 周年記念式

昭和 59 年(1984 年)上宮高等学校 6 号館竣工

昭和 60 年(1985 年)上宮中学校復活開校(於、太子町)

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和 63 年(1988 年)上宮高等学校太子町学舎開設

平成 1 年(1989 年)上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成 2 年(1990 年)創立 100 周年記念式典

平成 3 年(1991 年)上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成 5 年(1993 年)上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校(於、天王寺)

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成 22 年(2010 年)上宮学園創立 120 周年記念式典

平成 23 年(2011 年)校祖 800 年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成 24 年(2012 年)上宮太子高等学校男女共学化

平成 26 年(2014 年)上宮高等学校 3 年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

平成 30 年(2018 年)上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更

令和 元年(2019 年)南グラウンドに新校舎竣工 上宮学園中学校と上宮高等学校 新校舎へ移転

令和 2 年(2020 年)旧校舎解体 グラウンド竣工

令和 4 年(2022 年)上宮学園中学校 2 年 平林花香 夏季デフリンピック水泳入賞

3. 設置学校(所在地・コース等)

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号

全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子 1053

全日制 特進Ⅰ類(国公立大学)コース、特進Ⅱ類(難関私立大学)コース、総合進学(有名私立大学)コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町 9 番 36 号

特進コース・Gコース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合 計	65,061	49,679

5. 入学定員

名 称	学則定員(各 3 学年合計)
上宮高等学校	2,280
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	360
合 計	3,480

6. 生徒数・学級数 (令和 6 年 5 月 1 日現在)

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	624	17
	2 年	655	18
	3 年	590	16
上宮太子高等学校	1 年	170	5
	2 年	154	5
	3 年	184	6
上宮学園中学校	1 年	138	4
	2 年	128	4
	3 年	100	3
合計		2,743	78

7. 役員・評議員（令和6年4月1日現在）

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事 7名（うち、理事長 1名、理事 6名） 監事 2名

理事長 甲斐龍二（上宮学園長）

理 事 水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

丸山佳秀（上宮太子高等学校長）

原田和成（上宮学園法人事務局長）

間野泰治（学識経験者 評議員の互選）

川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

監 事 木田眞敏・毛利虎之助

ii 評議員（定員 15名 うち、理事兼任 7名）

金安克之（法人職員）

松井保（法人職員）

石井邦紀（法人職員）

横倉廉幸（卒業生）

神田眞晃（卒業生）

甲斐龍二（上宮学園長）

水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）

丸山佳秀（上宮太子高等学校長）

原田和成（上宮学園法人事務局長）

川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）

山北光彦（浄土宗大阪教区長）

鈴木伯隆（浄土宗僧侶）

間野泰治（上宮学園顧問弁護士）

水谷川源昇（学識経験者）

淵昭嘉（学識経験者）

8. 教職員（令和6年5月1日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	74	6	54	23	157
上宮太子高等学校	28	4	28	9	69
上宮学園中学校	18	5	11	2	36
合計	120	15	93	34	262

Ⅱ.事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

令和元年度に新校舎が完成し、新たな教育環境の整備を進める。

保護者会、同窓会及び、教育振興協力会の支援・協力による ICT 環境の整備、リモート授業を活用してのコロナ対応、デジタル採点等の業務の合理化などの取り組みを実施する。

今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

Ⅰ.法人

令和 6 年度 第 1 回理事会・評議員会

日 時 令和 6 年 5 月 28 日 (火)

会 場 評議員会:多目的室 理事会:本校応接 Ⅰ

- | | |
|-------|------------------------------|
| 議案第1号 | 令和 5 年度事業報告について |
| 議案第2号 | 令和 5 年度第2回補正予算(案)について |
| 議案第3号 | 令和 5 年度決算(案)について |
| 議案第4号 | 令和 6 年度予算(案)について |
| 議案第5号 | 令和 6 年度特待生について |
| 議案第6号 | 上宮学園中学校学則変更について(カリキュラム・学則定員) |
| 議案第7号 | その他について |

令和 6 年度 第 2 回理事会・評議員会

日 時 令和 6 年 12 月 18 日 (水)

会 場 評議員会:多目的室 理事会:本校応接 Ⅰ

- | | |
|-------|--------------------------|
| 議案第1号 | 令和 6 年度中間報告(財務面・教務面)について |
| 議案第2号 | 私学法改正による寄附行為変更について |
| 議案第3号 | その他について |

令和 6 年度 第 3 回理事会・評議員会

議案日時 令和 7 年 3 月 26 日 (水)

会 場 理事・評議員会:シェラトン都ホテル大阪 3F「金剛の間」

- | | |
|-------|---|
| 議案第1号 | 令和6年度補正予算(案)について |
| 議案第2号 | 令和 7 年度事業計画(案)について |
| 議案第3号 | 令和 7 年度当初予算(案)について |
| 議案第4号 | 上宮学園中学校・上宮高校・上宮太子高校近況報告について |
| 議案第5号 | 理事選任機関運営規定・評議員の選任及び解任規定・理事・評議員協議会運営規定制定について |

財務部管財係

令和 6 年度は南キャンパス及び北キャンパス各館の維持確保を中心に、既存設備の改修・交換等、補修工事を実施致しました。

また、太子高等学校校舎の外壁改修(4 期工事)を実施し、4 期に分けて計画致しました、太子高等学校校舎外壁改修工事は、すべて完了致しました。

1-北館各教室換気扇交換	3,080,000 円
2-普通教室空調室内機洗浄作業	3,426,500 円
3-濾過器濾材交換	2,178,000 円
4-B 館防犯カメラ増設及び各所改修	726,000 円
5-総合体育館地下フロア西側窓改修	401,500 円
6-本館西階段・東階段 1 階・2 階腰壁設置	650,000 円
7-太子校舎外壁外装タイル補修工事(4 期工事)	20,020,000 円
8-太子高校中庭床タイル補修及び 2 階陸屋根防水強化工事	4,510,000 円
合計金額	34,992,000 円

2.上宮高等学校

i.執行部関係

【上宮学園中学校共】(令和 6 年度)

校 長	水谷 善仁	中学教務部長	橘 誠
高 校 教 頭	木戸 俊治	生活指導部長	米田 文昭
高 校 教 頭	金安 克之	進路指導部長	三吉 宏和
中 学 教 頭	國岡 博史	入試対策部長	北村 吉隆
高校教務部長	西側 博基		

【基礎データ】

生徒数(年初数)

1 年生 624 名、17 クラス、クラス平均生徒数 36.7 名

2 年生 655 名、18 クラス、クラス平均生徒数 36.4 名

3 年生 590 名、16 クラス、クラス平均生徒数 36.9 名

合計 1,907 名、51 クラス、男子 1,193 名、女子 714 名、比 63:37

転退学者等

1 年生 退学者 17 名、うち転学者 13 名

2 年生 退学者 6 名、うち転学者 5 名

3 年生 退学者 3 名、うち転学者 3 名

合計 退学者 26 名、うち転学者 21 名

昨年度比 +3 名(1.13 倍)、全生徒数に対する割合は 1.4%(過去の全国平均 1.5%)

退学者等

1 年生 退学者 17 名(男子 9 名、女子 8 名)、うち転学者 13 名(男子 7 名、女子 6 名)

2 年生 退学者 6 名(男子 3 名、女子 3 名)、うち転学者 5 名(男子 2 名、女子 3 名)

3 年生 退学者 3 名(男子 3 名、女子 0 名)、うち転学者 3 名(男子 3 名、女子 0 名)

合計 退学者 26 名(男子 15 名、女子 11 名)、うち転学者 21 名(男子 12 名、女子 9 名)

昨年度比 +3 名(1.13 倍)、全生徒数に対する割合は 1.4%(過去の全国平均 1.5%)

教員数

合計 134 名

専任教諭 60 名、常勤教諭 14 名、常勤講師 6 名、非常勤講師 40 名、派遣 14 名

定年退職者 柴田明洋・島村昌彦・天野弘文・河島訓彦・伊地田龍也・米田浩三・福井良徳

早期退職者 今西和美

退職者 鈴木強志・畠山恭延

【教務関係】

新型コロナウイルス感染症による学校生活の制限も徐々に解除されており、コロナ禍前の学校生活を取り戻している。行事については体育大会が昨年に続き 3 学年揃っての開催となり、保護者の観覧数も前年度よりも増加した(文化祭は人の出入りが多いため制限を加えての開催)。授業においては、プロジェクターを活用、デジタル教務システム(BLEND)を活用、教務関係の公簿もデジタル化されることとなった。今年度から高校生全学年 iPad を活用することとなった。

【修学旅行】

昨年度は、11 月にオーストラリアのシドニーへの 3 泊 5 日の日程で実施し、614 名が参加した。天候にも恵まれ、異国の自然や文化に触れる修学旅行となった。ファームステイ体験やシドニー市内の自主研修等、生徒の満足度は高かったと思われる。昨年度に比べ、インフルエンザに罹患する者もなく、アレルギー生徒の対応には苦慮したものの、大きな事故もなく実施することができた。

【語学研修等】

今年度は、以下の海外における語学研修等を実施、セブ島 16 名・ケアンズ 29 名の参加者があった。

ケアンズ語学研修の参加者は昨年度より 11 名の増加であった。

8 月 フィリピンセブ島語学研修

3 月 オーストラリア・ケアンズ語学研修

2.広報関係

上宮高等学校

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。ここ4年間はコロナ禍のため各回定員制にしている。R6年度は、1・2回目は1,400名、3回目は1,500名、4回目は1,600名定員制・完全予約制で実施。どの回も約600組以上の参加があった。全体の参加者組数は、4回目の定員数も増やしたこともあり2,540組から2,582組に増加した。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていても良いのではないかな。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないかな。
- ・申し込み開始から数日で締め切りという状況になっていた。もう少し収容できるように工夫が必要ではないかと考える。

上宮高等学校 入試説明会参加者（組）					
	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
2024年度	628	646	617	649	2540
2025年度	626	625	651	680	2582
前年比	-2	-21	34	31	42

②塾対象説明会

R6年度も学校において実施した。実施時期も実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駿々堂模試の結果が出る）に実施。参加塾数は、147塾であった（前年度は205塾）。他校（大阪夕陽丘学園など）と開催日が同一ということと、少子化により塾数が減少の一途をたどっており、参加塾も減少してきていると思われる。

学校実施は校舎を見ることができ好評であった。

次年度以降もこの時期で良いのではないかとと思われる。

○今後について

- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないかな。
- ・レジュメの字が小さい、メモを取るのに机や台がない等の要望が出ている。取り入れることができることから取り入れていきたい。
- ・可能であるならば、卒業生に上宮の魅力を塾の先生方に話してもらいたいのも一つではないかと思う。

③私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮学園中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている（特に高等学校）。管理職・各分掌部長・サポートの先生方の応援をいただいたのと、1組当たりの説明時間を15分と短縮し、少しは混乱も解消したかと思う。両日の参加者は高等学校344組、中学校14組であった。（前年 高等学校330組、中学校11組）

対応する先生方の人数が少ないので、整理券配布時間に並んでいただいても説明を聞くことができない方が居られるため、今後何とかして先生方の人数を増やすことができるようにしていきたい。

④特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと大学への推薦の数と制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。志願者数全体では前年よりも99名減少、専願志願者47名増加、併願志願者146名減少している。大阪府、奈良県の内訳をみると、大阪府では総志願者数減少、専願志願者増加している。奈良県では総志願者数減少、専願志願者微増している。これは、大阪府、奈良県の私立高校等授業料

無償化制度の影響かと思われる。私学の無償化に伴い私学の設備の良さやフォローの手厚さで、最初から公立よりも私学を考える家庭が増えたと思われる。併願の志願者数が昨年度と比べ１割ほど減少しており併願志願者の歩留まりも非常に悪かった。一昨年度までの歩留まりを見ると年により若干の違いはあるが、パワーコース約１０％から約１２％、英数コース約１１％から約１３％、プレップコース約１２％から約１５％であるのが、昨年は、パワーコース７.６％、英数コース９.６％、プレップコース９.３％となり、今年度はパワーコース７.０％、英数コース６.３％、プレップコース８.１％となった。やはり私学無償化により専願で受験する生徒が増え併願の受験生が減っているうえ、公立高校で定員割れを起こす学校も増えており歩留まりは悪かった。

併願での戻りが見込めなくなっているため今後さらに専願志願者を増やす方策(例えば出前授業、特待生制度の充実・資格取得における読み替え制度あるいは加点制度等)を検討する必要があるが、大学進学実績を見てその実績が高い学校が選ばれる傾向にあるので、大学進学実績を上げることが急務である。

今年度から、以前実施していた管理職との本部への挨拶回りを実施した。

⑤入試関係

中学校への実力テストの基準は、すべてのコース、専願・併願とも昨年と変更していない。また、五ツ木書房の模擬試験においても、一番受験生が多い第６回(１１月実施)で上宮高等学校を志望校に入れている生徒が、専願２８５名、併願８６５名、合計１,１５０名(前年、専願３３１名、併願９１５名、合計１,２４６名)合計では９６名の減少が見られた。

その結果 2025 年度入試においては、受験者が昨年より 89 名減少した。

ここ数年の受験生を見てみると 2019 年度入試では 2,200 名以上受験していたが、じりじりと減少してきている。全般的な少子化の影響もあるが、受験生(特に専願希望者)を増加させる方策を考えなければならない。

上宮高等学校 入試結果			
志願者 (名)			
	専願	併願	合計
2024年度	430	1447	1877
2025年度	477	1301	1778
前年比	47	-146	-99
合格者 (名)			
	専願	併願	合計
2024年度	409	1381	1790
2025年度	456	1214	1670
前年比	47	-166	121
入学者 (名)			
	専願	併願	合計
2024年度	409	126	535
2025年度	456	88	544
前年比	47	-38	9

iii.進路関係

1.大学等進学状況の概況

令和５年度卒業生(共学１１期生)は 646 名(昨年度 625 名)。学年全体の現役合格率(大学・短期大学・専門学校合格)は 94.0%(昨年 96.8%、一昨年 94.9%)でここ数年 95%前後を推移している。

2. 令和 6 年度入学入試を取り巻く環境について

1) 2021 年度入試より大学入試改革による大学入試区分の名称変更が行われ、これら名称も定着してきている。

①AO 入試 ⇒ 総合型選抜

②推薦入試 ⇒ 学校推薦型選抜(スポーツ推薦入試・連携指定校制推薦入試・公募制推薦入試)

③一般入試 ⇒ 一般選抜

④「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に呼称変更

2) 新型コロナウイルスの 5 類移行の大学入試などへの影響等。

①昨年に続き、年内入試(推薦入試)の志願者増で高止まり。

②本校では「連携・指定校制推薦入試」での出願が 50% 台から約 40% に減少。

3) 18 歳人口が減少するなか、私立大学では、「補欠からの繰り上げ合格」および「追加合格」の増加を抑えるため、合格者数を増加させ全体的に易化。結果的に、本校の私立大学合格者も維持または増加した。

(4 の 2 参照)

例:「関西大学」:複数回の繰り上げ合格を発表。

2/29 に第 1 回目 437 人、3/24 に第 2 回目 86 人の繰り上げ合格発表

(昨年 2/27 731 人、3/25 160 人、一昨年 2/27 1350 人、3/25 20 人)

「近畿大学」:複数回の繰り上げ合格・追加合格を発表

2/24 に第 1 回目 195 人、3/19 に第 2 回目 0 人の繰り上げ合格発表

(昨年 2/24 258 人、3/18 60 人、一昨年 2/24 706 人、3/19 372 人)

等、「補欠からの繰り上げ合格」「追加合格」が昨年に続き減少傾向にある。

3. 本校の令和 5 年度卒業生の最終進学先の状況

令和 5 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
646	559	6	22	1	58
割合	86.5%	0.9%	3.4%	0.2%	9.0%

*「就職者」内訳:公務員

*「その他」は進学準備・留学準備等(大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む)

令和 4 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
625	569	6	27	3	20
割合	91.0%	1.0%	4.3%	0.5%	3.2%

*「就職者」内訳:公務員(2)、一般企業

*「その他」は進学準備・留学準備等(大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む)

4.大学別合格者について

1)国公立大学合格者 30 名(昨年度 28 名) *現役・過年度生を合わせた大学別実人数

【令和 3 年度～令和 5 年度の国公立大学合格状況 過年度比較】

国公立大学合格者								
令和 5 年度			令和 4 年度			令和 3 年度		
(卒業生数 646 名)			(卒業生数 625 名)			(卒業生数 549 名)		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	大阪公立大	5	1	和歌山大	4	1	和歌山大	7
2	和歌山大	4		大阪教育大	4	2	大阪公立大	5
3	大阪教育大	3	3	大阪公立大	3	3	神戸大	2
4	京都府立大	2	4	神戸大	2		和歌山県立医大	2
	神戸市立外国語大	2		鳥取大	2		徳島大	2
	奈良県立大	2		神戸市立外国語大	2	6	大阪大	1
	愛媛大	2	7	京都工芸繊維大	1		京都教育大	1
	高知工科大	2		奈良教育大	1		大阪教育大	1
9	神戸大	1		奈良県立医大	1		奈良教育大	1
	奈良教育大 等	1		奈良県立大 等	1		奈良県立医大 等	1
	合計実人数	30		合計実人数	28		合計実人数	30
	うち現役実人数	28		うち現役実人数	22		うち現役実人数	26
国公立型クラス現役生数		128	国公立型クラス現役生数		120	国公立型クラス現役生数		126

①国立大 15 名(うち現役 15 名) ②公立大 15 名(うち現役 13 名)

2)私立 5 年制大学 大学別合格者実人数 824 名(うち現役 790 名)卒業生 646 名

*(昨年度 839 名 うち現役 785 名)卒業生 625 名

*(一昨年度 715 名 うち現役 662 名)卒業生 549 名

【令和３年度～令和５年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 *現役生のための大学別合格実人数で比較								
令和５年度			令和４年度			令和３年度		
卒業生数 646 名			卒業生数 625 名			卒業生数 549 名		
1	近畿大	111	1	近畿大	99	1	近畿大	75
2	龍谷大	68	2	龍谷大	70	2	摂南大	63
3	関西大	61	3	関西大	62	3	龍谷大	53
4	摂南大	51	4	摂南大	51	4	関西大	51
5	京都産業大	31	5	追手門学院大	48	5	大阪工大	32
6	追手門学院大	30	6	桃山学院大	29		追手門学院大	32
7	大阪工大	28	7	大阪経大	25	7	桃山学院大	22
8	大阪経大	27	8	同志社大	23	8	同志社大	20
	武庫川女子大	27		武庫川女子大	23	9	武庫川女子大	18
10	桃山学院大	26	10	関西外大	21	10	甲南大	16
11	同志社大	20	11	大阪工大	20	11	京都産業大	15
12	大阪電気通信大	19	12	京都産業大	18	11	畿央大	15
12	関西外大	19	13	立命館大	17	13	大阪電気通信大	14
12	関西学院大	19	14	関西学院大	16	14	大和大	12
15	同志社女子大	18	15	大和大	14	15	大阪経大	11
16	甲南大	17		畿央大	14		関西外大	11
17	大和大	16		神戸学院大	14	17	立命館大	10
18	立命館大	14	18	同志社女子大	13		京都女子大	10
19	畿央大	13		甲南大	13	19	関西学院大	9
20	神戸女学院大	10	20	京都女子大等	11	20	同志社女子大等	8
	合計実人数	790		合計実人数	785		合計実人数	662
	卒業生数	625		卒業生数	625		卒業生数	549

参考:プレップ・6ヵ年プレップの連携・指定校制推薦入試「被推薦者」数の推移

年度	共学	合計	%	文系	%	理系	%
R5	11期	193	39.6	119	36.5	74	45.7
R4	10期	203	42.1	149	37.5	54	63.5
R3	9期	213	53.1	130	52.2	83	54.6
R2	8期	229	50.2	151	50.2	78	50.3
H31	7期	180	35.9	138	36.0	42	35.6
H30	6期	193	39.3	137	40.2	56	37.3
H29	5期	154	30.3				
H28	4期	126	24.6				
H27	3期	157	28.9				
H26	2期	160	32.4				
H25	1期	204	29.8				

*%はプレップ・6ヵ年プレップの合計在籍人数に対する割合。

3)私立短期大学合格者 10名(うち現役9名)

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和5年度	令和4年度	令和3年度
10	11	17
うち現役 9	11	15

4)専門学校合格者 23名(うち現役22名)

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和5年度	令和4年度	令和3年度
23	30	22
うち現役 22	28	20

5.進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

*本年度も、一部の事業で「新型コロナウイルス」の影響が残った。

- 1) ①河合塾「全統模試」は、公開会場での受験が出来るようになったが、公開会場と校内実施では受験料が大きく異なる等の理由により、一部の実施回を国公立コース担当者によって校内での実施となった。
- ②主な連携大学の指定校制推薦入試の「夏期必修プログラム」が昨年同様、中止となった。また一部の大学はオンラインで実施した。
- ③高校各学年の「進路オリエンテーション」「進路説明会」等は全クラス講堂での実施に戻った。

- 2)卒業生執筆による「合格体験記―後輩につなぐ言葉―」を発刊。高 1・高 2・高 3 生の進路 HR 等の教材として活用した。
- 3)放課後の学習支援事業「Uゼミ」が開講 10 年目となった。本年度は、1 年を通じて予定通り実施した。本年度は、コロナ関連の出席停止は減少したが、インフルエンザ等による出席停止が増加し、受講できなかった講座の受講料は返金による対応となった。
- 4)U ゼミの「英検合格講座」は本年度より、「予備校トフルゼミナール大阪校」に講師派遣及び教材を委託し、中 1 から高 3 までの希望者を対象として、土曜日放課後に 3 期に分けて開講した。
- 5)「オンライン英会話」は事業者を「(株)ノバホールディングス」に変更し 3 年目となった。
中 1 から高 3 までの希望者を対象として、前期 26 名、中期 13 名、後期 7 名の生徒が受講した。
次年度の改善にむけ、受講料の見直し、サービスの向上を事業者に申し入れた。
- 6)「夏期講座」は前期 7/26～29、後期 7/31～8/3 で実施した。高校生を対象に前・後期合わせて約 120 講座を開講し、520 名の生徒が受講した。
- 7)「連携・指定校制推薦入試」に合格の高 3 生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。
- ①「連携大学の先生による入学前特別講義」
連携協定を締結している甲南大学経済学部教授 2 名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を 2 日間(午前中)で実施した。
- ②「Global Studies Program」
昨年度より名称を「エンパワーメントプログラム」から「グローバルスタディーズプログラム」と変更し実施した。本年度は令和 6 年 2 月に A グループ 13 日～15 日、B グループ 19 日～21 日の日程で実施。参加生徒 202 名を A グループ 102 名、B グループ 100 名に分け、更にその中で会場を 2 か所に分けた。A グループ 12 カ国 17 名、B グループ 12 カ国 17 名の国際学生と、外国人ファシリテーター 2 名が来校して、本校生徒の指導にあたった。
- 8)「進路ガイダンス」
本年度より、高校 2 年生を対象に実施した。36 大学の担当者に本校へ来校いただき、各大学の特徴と入試制度について説明を行ってもらい、生徒は、36 校から 3 校を選び受講した。
尚、次年度は、高 2 に加え高 1 も対象に実施予定。

3.上宮学園中学校

【基本データ】

生徒数(年初数)

1 年生 128 名、4 クラス、クラス 平均生徒数 32.0 名
2 年生 138 名、4 クラス、クラス 平均生徒数 34.5 名
3 年生 119 名、4 クラス、クラス 平均生徒数 29.7 名
合計 385 名、12 クラス、男子 247 名、女子 138 名、男女比 64:36

転退学者等

1 年生 転学者 0 名(男子 0 名、女子 0 名)
2 年生 転学者 9 名(男子 7 名、女子 2 名)

3 年生 転学者 2 名(男子 2 名、女子 0 名)
 合 計 転学者 11 名(男子 9 名、女子 2 名)
 昨年度比 +1 名 ※全生徒に対する割合 3.0%
 転入者 0 名

教員数

合計 34 名

専任教諭(教頭含む)11 名、常勤教諭 7 名、常勤講師 5 名、非常勤講師 9 名、派遣講師 2 名
 早期退職者 辻 章夫 計 1 名

i 広報

① 上宮学園中学校

学校説明会

入学希望者を対象に 9 月から月に一度 11 月まで合計 4 回学校説明会を実施している。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、教務部長と相談して少しスタイルを変え、在校生徒にインタビュー形式で学校の特徴や授業の様子を伝えてもらったり、制服のバリエーションを生徒に着用してもらいファッションショー形式で講堂内を歩いてもらったりと工夫をしていただいた。2022 年度入試から公開授業見学会に代わり、学校見学会を 2 回実施した。プレテストも 2 回実施している。その結果、2024 年度入試の説明会参加組数は 1,538 組(説明会 523 組、校内見学会 96 組、一般学力プレテスト 531 組、適性検査プレテスト 373 組)であったが、2025 年度入試は 1,462 組(説明会 486 組、校内見学会 93 組、一般学力プレテスト 482 組、適性検査プレテスト 372 組)と減少した。プレテストの適性検査の受検者増加においては、開成教育セミナー様への校舎貸し出しの好影響かと考える。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていっても良いのではないかな。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないかな。

上宮学園中学校 授業見学会・学校説明会参加者（組数）				
	入試説明会	校内見学会	一般学力型プレ	適性検査型プレ
2024年度	523	96	531	373
2025年度	486	93	482	372
前年比	-37	-6	-49	-1

② 塾対象説明会

高校と内容は同じ

③ 私学展

高校と内容は同じ

④ 中学校フェア

4/23(日)に 10:00～16:30 で実施。

66 組の相談があった。

⑤特筆すべき点

25 年度入試で大阪府の受験者数が高校の無償化の影響を受け、前年度より 500 人増加しているにもかかわらず、上宮学園中学校受験者数は前年と比べて 1 次午前が 119 名➡85 名(-34 名), 1 次午後が 173 名➡155 名(-18 名), 2 次が 142 名➡145 名(+3 名)と 1 次入試で減少している。

特にほとんどの学校が入学試験を実施する初日午前入試の受験者数が減っているところを見ると、上宮学園中学校を第一志望としている児童が減少しているということなので、上宮学園中学校を 1 番と覚えてもらえる受験者を増やす必要がある。中学入試は保護者が児童の志望校を決めることが多いため、受験生保護者にアピールできるような特色づくりを学校として取り組んでいく必要がある。

上宮学園中学校の立ち位置はレベル的に言えば特進で偏差値 50 ほど、G コースで 45 と言っているが、偏差値が 50 あるならば、明星・清風・大阪女学院に十分合格できる(40 台でも合格する可能性は高くなっている)。その結果、大阪府内の私立中学校の半分以上の学校が定員を満たせなくなった。児童急減期に現在の生徒数を確保できるように、その方法を考える必要もあると思う。(関東圏では英語入試プログラミング入試,ものづくり入試,ICT 思考力入試,多面的入試・資格取得における読み替え制度あるいは加点制度等々実施されている。)

入試関係

入試方法においては、一般学力型入試では午後入試以外特進コース・G コースとも入試教科数は、2 教科・3 教科・4 教科。午後入試では 2 教科。適性検査型入試では 2 教科。自己アピール型では基礎学力考査,作文,面接で入試を実施した。

上宮学園中学校 入試結果					
志願者 (名)					
	1次一般学力型午前	1次一般学力型午後	1次適性検査型	2次一般学力型	自己アピール型
2024年度	122	176	95	161	0
2025年度	91	158	106	159	2
前年比	-31	-18	11	-2	2
合格者 (名)					
	1次一般学力型午前	1次一般学力型午後	1次適性検査型	2次一般学力型	自己アピール型
2024年度	113	139	86	118	0
2025年度	74	143	90	122	1
前年比	-39	4	4	4	1
入学者 (名)					
	1次一般学力型午前	1次一般学力型午後	1次適性検査型	2次一般学力型	自己アピール型
2024年度	97	19	9	13	0
2025年度	66	35	12	14	1
前年比	-31	16	4	4	1

中学入試においては全体で

全体で約 40 名の志願者が減少した。特に前述したように 1 次午前の志願者数が 31 名と大きく減少した。上宮学園中学校を第一志望としてもらえるような特色づくりが急務である。そのためにも大学合格実績を上げるこ

とが必要である。しかし、入学者は昨年度と比べて 10 名しか減少しなかった。今年度は近大付属中学校を併願した生徒が入学している割合が多く、調べてみると近大付属中は前期入試で志願者数が前年度比+50 パーセントとなっており入試が難化したと思われ、昨年度までなら合格できる成績ラインの生徒が今年度は不合格になり併願校の上宮学園中学校に流れたものと思われる。

今年度も適性検査型受験の入学者が増えており開成教育セミナー様への校舎貸し出しの好影響かと考える。

ii.教務関係

(1)学校評価の総括から ()内は自己評価

- ① 生徒と保護者への情報伝達の迅速化 (B)
- ② 学校行事の見直しと改善 (A)
- ③ 学習評価の明確化 (B)
- ④ カリキュラムの検討 (C)
- ⑤ 備品や必要書類の整理・整頓 (B)

(2)祖山参拝、芸術鑑賞

- ① 祖山参拝は中学 1 年生が実施(4 月)
- ② 芸術鑑賞については、全学年が「ロミオとジュリエット」を梅田芸術劇場にて鑑賞(7 月)

(3)中 3 国内研修旅行

今年度は北海道で実施(10 月)

(4)スキー実習

中 1、中 2 の全員が、志賀高原スキー場にて 3 泊 4 日で実施(2 月)

(5)体育大会

エディオンアリーナにて全学年そろって実施(11 月)

(6)上記以外の行事(各学年主導の校外学習)

- 1 年:『大阪城公園』を見学(5 月)
- 『天王寺動物園』を見学(10 月)
- 球技大会を実施(12 月)
- 『国際交流型まちなかロゲイニング』実施(3 月)

2 年:『キッザニア甲子園(西宮市)』(6 月)

- 思春期教室をクラス別で実施(6 月と 7 月)
- 『琵琶湖博物館』を見学(10 月)
- 『人と防災未来センター』を見学

3 年:イングリッシュ・インテンシブ・プログラムをコース別で実施(7 月)

- 『グローバル体験』(ECC 英語学院)をクラス別で実施(9 月)
- 富士通 SDGs プログラムを実施(12 月)
- 『ひらかたパーク』(大阪府)での校外自由研修実施。(3 月)

iii.課外活動関係(全国大会以上を記載)

◎卓球部

・第 55 回 全国中学校卓球大会	団体戦	出場
	シングルの部	2 名出場
・全日本卓球選手権大会	カデットの部	2 名出場
	ダブルスの部	ベスト 8
	ジュニアの部	1 名出場

◎柔道部

・第 55 回 全国中学校柔道大会出場	団体戦	出場
	個人戦	優勝(73kg 級)

◎弓道部

・第 21 回全国中学生弓道大会 (JOC ジュニアオリンピック大会)	個人戦	1 名出場
--	-----	-------

◎フェンシング部

・第 10 回全国中学生フェンシング選手権大会	個人戦	1 名出場
-------------------------	-----	-------

○総括

今年度も昨年度に引き続き、募集人数を超える(128 名)新入生の入学があった。しかし、昨年まで順調に女子生徒の人数は増加していたが、残念ながら今年度は女子の比率が約 29%に留まり、昨年の約 41%を下回ってしまったのは残念であった。今後は女子生徒が増え安心して出願し入学してくれる学園を目指していきたい。

保護者説明会は予定通り実施できた。授業参観に関しては、教室のスペース的な問題もあり、保護者全員が教室には入れず、教室内と廊下から眺める状態であった。しかし、保護者からは好評で、ぜひ次回も続けて実施したいと思っている。

昨年に続いて国内研修旅行(北海道)や 1・2 年合同スキー実習、芸術鑑賞、そして祖山参拝を実施することができた。これらを実施することで、中学 1 年生から少しずつ『上宮』に慣れ、より良い学校生活を送ってもらえたのではと思っている。

学習面においては、英語暗唱大会、ネイティブによる授業、年 3 回の英検校内実施など、英語能力向上のためのプログラムを工夫し実施した。徐々にではあるが成績面で効果が現れてきていると感じている。

現在、3 学年共、毎日の朝の小テストと小テスト不合格者の居残り補習を実施している。今後は朝の小テストだけでなく、更なる学力向上を目指し、講習を取り入れることが必要と感じている。まずは 1 年生から実施に向けて動いていきたい。

上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長	丸山 佳秀	生徒指導部長	尾山 友昭
教 頭	淵 昭嘉	進路指導部長	福田 和憲
教務部長	田中 良和	入試対策部長	佐々木哲也

【基礎データ】

生徒数(年初数)

1 年生	170 名	5クラス	クラス平均生徒数	34.0 名
2 年生	154 名	5 クラス	クラス平均生徒数	30.8 名
3 年生	185 名	6 クラス	クラス平均生徒数	30.8 名
合 計	509 名	16クラス	男子 331 名 女子 178 名	男女比 65:35

転退学者等

1 年生	退学者3名(男子2名・女子1名)	うち転学者1名(男子1名・女子0名)
2 年生	退学者9名(男子5名・女子4名)	うち転学者9名(男子5名・女子4名)
3 年生	退学者2名(男子1名・女子1名)	うち転学者2名(男子1名・女子1名)
合 計	退学者14名(男子8名・女子6名)	うち転学者12名(男子7名・女子5名)

教職員数

合 計 69名

専任教諭 22名(校長、教頭含) 常勤教諭 6名 有期常勤教諭 4名 非常勤講師 26名
非常勤嘱託職員 2名 派遣講師 2名 事務職員 3名(事務長含) 非常勤嘱託事務職 2名
派遣事務員 2名

ii 入試対策 広報関係

☆令和6年度の校内説明会について

☆R6 校内説明会比較											
3月22日付											
年度	6月中旬	8月下旬	9月	10月初旬	10月下旬 11月初旬		11月中旬 ～下旬	12月初旬	12月中旬	合計	専願受験者数
2018			オープンⅨ/8	入試説明会①10/8	UTフェスタ10/27		入試説明会②11/19	入試説明会③12/8	直前説明会12/16	916組	110
			158組(312名)	82組(165名)	105組(177名)		170組(310名)	178組(336名)	223組(445名)	(1745名)	
2019			オープンⅨ/7	入試説明会①10/6	UTフェスタ10/25		入試説明会②11/17	入試説明会③12/8	直前説明会12/15	887組	138
			175組(330名)	70組(144名)	116組(212名)		167組(319名)	156組(316名)	203組(399名)	(1720名)	
2020				入試説明会①10/4	オープン10/31		入試説明会②11/21	入試説明会③12/6	直前説明会12/13	657組	121
				60組(112名)	241組(416名)		88組(153名)	138組(335名)	130組(261名)	(1177名)	
2021			UTフェスタ①9/11	入試説明会①10/9	UTフェスタ②10/30	入試説明会②11/3	UTフェスタ③11/20	入試説明会③12/4	直前説明会12/12	837組	170
			116組(232名)	51組(82名)	114組(193名)	85組(143名)	138組(232名)	163組(311名)	170組(298名)	(1507名)	
2022		UTフェスタ⑧8/27	UTフェスタ②9/17	入試説明会①10/2	UTフェスタ③10/22	入試説明会②11/3		入試説明会③12/3	入試過去問 解説会12/11	884組	121
		115組(232名)	133組(234名)	39組(76名)	130組(237名)	79組(155名)		173組(324名)	215組(384名)	(1642名)	
2023	クラブ体験会6/17	UTフェスタ⑧8/26	UTフェスタ②9/16	UTフェスタ③10/14	入試説明会①11/3		入試説明会②11/19	入試説明会③12/3	入試過去問 解説会12/10	996組	159
	48組(72名)	144組(307名)	133組(259名)	152組(296名)	86組(170名)		97組(191名)	146組(282名)	190組(354名)	(1931名)	
2024	オープンⅠ6/15	オープンⅡ8/31	オープンⅢ9/21	オープンⅣ10/26	入試説明会①11/3		入試説明会②11/16	入試説明会③12/8	入試過去問 解説会12/15	974組	171
	75組(127名)	中止	204組(424名)	174組(369名)	81組(170名)		70組(133名)	157組(336名)	213組(432名)	(1991名)	
☆学校見学											
	6月(3組)、7月(1組)、8月(1組)、9月(7組)、10月(1組)、11月(9組)、12月(8組)、										

※毎年、上宮太子に来校してくれる受験生が増えている。来校者数が、一昨年が996人で昨年は974人であった。しかし昨年のオープンⅡが実施されていれば1300人が上宮太子を見にきてくれたことになる。

☆オープンキャンパスについて

上宮太子を希望する生徒の中には、クラブを思いっきりやりたい子もいるが、コロナ以降そこまでクラブに入ることを望まない子も増えてきている。特に昨年度は授業体験や全クラブ見学に希望者が多くいた。クラブ以外の受験生・保護者に対するアプローチが大事になる。

☆入試説明会について

先生と生徒の距離の近さや、上宮太子の面倒見の良さをアピールしながら、常に生徒が前に出て楽しい雰囲気を作っていた。保護者も安心して子供を預けようと思うような説明会であった。

☆校外説明会・ブースについて

2025年度入試 説明会参加予定表						2025/4/19			現在		
月	日	曜	行事	主催	会場	2020	2021	2022	2023	2024	2025
6	2	日	私立中・高等学校進学相談会in天王寺	産経アドス	あべのハルカス	16		15	17	32	37
7	6	土	私立中学校高等学校合同説明会	情報誌 ぱど	堺市産業振興センター	29	16	30	27	35	36
7	14	日	産経新聞私立中・高等学校 入試説明会	産経アドス	大阪府立体育会館	46		6	25	35	38
8	10	土	大阪私学展1日目		天満橋OMMビル	90	44	26	63	72	77
8	11	日	大阪私学展2日目		天満橋OMMビル	94	23	23	68	73	85
8	24	土	奈良県 明光義塾進学相談会	明光義塾	王寺町地域交流センター	8		7	5	7	
8	31	土	南大阪中学校・高等学校進学説明会	みらいカンパニー	SAYAKAホール					23	33
9	14	土	明光義塾進学相談会	明光義塾	京セラドーム	35		24	31	32	36
9	15	日	開成進学フェア大阪会場	開成教育セミナー	マイドーム大阪					16	23
9	16	祝月	私立中学・高等学校進学フェアin堺	大阪朝日広告社	堺市商工会議所					3	11
9	16	祝月	2024年度 進学情報展	社団法人全国学習塾協会	天満橋OMMビル	18	5	1	13		14
9	21	土	南大阪中学校・高等学校進学説明会	みらいカンパニー	堺市産業振興センター					11	9
9	22	日	私立高校説明会 透塾	透塾	透塾 樺原校			30	24	33	29
9	22	日	私立中・高等学校進学相談会in天王寺	産経アドス	あべのハルカス	14	5	10	13	7	13
9	29	日	「第19回私立中学・高校入試相談会」	中和教育研究会	奈良県社会福祉総合センター	29	24	31	24	30	21
10	6	日	五ツ木 進学説明会	五ツ木書房	天満橋OMMビル	6	21	6	15	23	22
10	6	日	第28回 私立中学・高校入試相談会	香芝研究会	ふたかみ文化会館	38	27	31	22	21	35
10	6	日	奈良県進学博	学習塾優	奈良県長コンベンションセンター			4	8	7	5
10	20	日	私立中・高等学校進学相談会in八尾	産経アドス	八尾市文化会館			6	6		10
10	26	土	たまき塾主催 説明会	たまき塾	広陵町ふるさと会館グリーンパレス				8	7	8
10	27	日	学校説明会	田中塾	ゆめニティまつばら3F				4	3	
10	27	日	進学ガイダンス	泉州私塾連合	テクスピア大阪	9		11	3	1	2
					合計	432	165	261	376	471	544

※外部ブースにおいて、過去6年間で最高の人数が参加してくれた。上宮太子に対する関心度は高い。
 他校の先生や、保護者からも「上宮太子の先生方は仲がいいですね」とか、「学校生活が楽しそうですね」と言われる。先生方の対応も、保護者に話すのではなく、受験生に話しかけることが多く、それによって保護者が安心されるところもポイントとなる。

☆6年間の志願者数について

【志願者数(1次入試のみ)】

令和2年度

	専願	併願
特Ⅰ	35	178
特Ⅱ	55	81
総合	49	68
計	139	327
	466	

令和3年度

	専願	併願
特Ⅰ	18	196
特Ⅱ	38	92
総合	66	89
計	122	377
	499	

令和4年度

	専願	併願
特Ⅰ	13	147
特Ⅱ	41	118
総合	116	122
計	170	387
	557	

令和5年度

	専願	併願
特Ⅰ	16	172
特Ⅱ	25	129
総合	80	136
計	121	437
	558	

令和6年度

	専願	併願
特Ⅰ	17	181
特Ⅱ	30	121
総合	112	109
計	159	411
	570	

令和7年度

	専願	併願
特Ⅰ	25	141
特Ⅱ	38	108
総合	108	111
計	171	360
	531	

※併願の戻りが期待できない中、専願で何とか集めることができた。併願から専願への切り替えも数人いた。
(他校では切り替えた人数が30人以上だったところもある。)

☆特待生について

今回、特待生候補については14人に声をかけた。特待Aで1人、特待Bで3人が専願で受験してくれた。
(昨年は1人)昨年度の特進Ⅰ類の大学合格情報が結果に結びついた。

☆公立高校について

全体の平均倍率 昨年度は 1.05 倍 ⇒ 今年度は 1.02 倍

- ・公立不人気 2年連続過去最低!
- ・募集人員を約 1500 人減らしたが、志願者数は約 2400 人減少
- ・全日制 128 校のうち約半数の 65 校で定員割れ
- (3 年連続定員を満たさず改善の見込みなし→再編整備の対象)

大阪府の高校

☆公立 128 校 ☆私立 94 校

人口減少の中、高校が多すぎる!

今後もさらに少子化は進むので、もっと定員割れの学校が増える。しかし、私立も半分は定員割れをしている!どこの私立高校もみんな焦っている

※募集人員 1530 人を減らした公立高校

八尾翠翔(-40)、懐風館(-40)、登美丘(-40)、金岡(-40)、久米田(-40)、鳳(-40)、河南(-40)
など募集停止高校 2校(大正白稜、福泉)

※公立中学卒業者数 65710 人 (昨年より 1130 人減)

☆文理学科の倍率について

豊中:1.49 茨木:1.36 四條畷:1.44 北野:1.27 大手前:1.19 高津:1.29
天王寺:1.21 生野:1.26 三国丘:1.31 岸和田:1.18

※公立不人気のため文理学科でも、倍率がかなり低くなってきている。

☆普通科の倍率について

夕陽丘(1.19→1.23→1.23)、 阿倍野(1.40 →1.06 →1.07)、 東住吉(1.22 → 1.19 → 1.13)、
阪南(1.22 → 1.06→1.05)、 布施(1.28 → 1.08→1.10)、 山本(1.21 → 1.05→1.17)、
八尾(1.41 → 1.08→0.99)、 大塚(1.08 → 0.82→0.77)、 河南(1.02 → 0.95→1.00)
富田林(1.12 → 0.96→1.06)、金剛(0.98 → 0.98→1.02)、 懐風館(0.69 → 0.63→0.34)、
長野(0.82 → 0.76→0.66)、 藤井寺(1.18 → 1.02→1.03)、 狭山(1.18 → 0.98→1.05)
登美丘(1.33 →0.96→1.04)、 檀原(1.15 → 1.01→1.01)、 畝傍(1.06 →1.19→1.02)
桜井(1.19 →0.99 →1.17)、 香芝(1.19 →1.08 →1.17)

※すべての公立高校がギリギリの状態のため、来年度はどこの公立が定員割れになってもおかしくない状態である。創立 100 年以上の伝統校でも定員割れをおこしている。

☆他の私学の3年間の専願者数

阪南大学:440 募集中、専願 368 → 448→463

四天王寺東:175 募集中、専願 83 →149→131

関西福祉科学大学:270 募集中、専願 322 →252→291

利晶学園大阪立命館:270 募集中、専願 143 →119→246

初芝富田林:210 募集中(昨年 205、一昨年 157)、専願 61→65→69

上宮太子:175 募集中、専願 121→159→171

※阪南、関西福祉が伸ばしてきた。大学付きが影響している。

※四天王寺東は、オープンキャンパスで常に上宮太子より多くの人数を集めており、今年から生徒を前に出すようにしていた。そのため前評判はすごく良かったが、先生の対応が冷たそうで人気を落とし、専願は割れていた。入試広報の人数も少なく、今は手が回っていない状態。

※初芝立命館が、はつしばの名前を捨て、初芝橋本が中学を閉じている中、初芝富田林が、ここ何年も低迷している状態なので、どういう動きになるか注目である。

☆今後公立はどうなるのか

- ・ 2028 年度より、公立の入試日を3月 10 日→3月1日、私立の入試日に近づける。これにより併願から専願への切り替えを少なくしようと考えている。

- ・ 以前は公立の第1志望校不合格のとき、第2志望校(定員割れ校)に出願できるように考えていたが、4月23日の総理の案では、共通テストの判定により、第1希望から第4希望までとって、どこかで合格する考えが発表された。

※公立高校に魅力がない限り、現状は変わらない

※私立とは環境面の整備などのお金のかけ方に差がある

【私学の就学支援金について】

国の就学支援金:公立と私立の授業料格差を埋めるためのお金

令和8年度(2026年度)から、収入要件を撤廃し国は私学に対して就学支援金を45.7万円に引き上げ

(全国の私立の平均)

国 : 45万7000円 支給

大阪府 : 17万3000円 支給

学校 : 6万6000円 負担(例:上宮太子)

合計 : 69万6000円(授業料21万2000円×3+教育拡充費2万円×3)

大阪 : 完全無償化

奈良 : 69万6000円-45万7000円=23万9000円 個人負担(月約2万円)

☆来年は奈良からの受験が変わるかもしれない

専願率や併願から専願への切り替え等が増える可能性あり！

注意！ ただし、大阪府独自の無償化のお金が 254 億円浮いてくるのでこれを大阪の公立に使われたらきびしくなる

☆入試対策部として

メンバー		渉外活動 メインエリア
佐々木	部長	太子町、河南町、羽曳野、千早赤阪村、富田林、大阪狭山、美原区
植 田	主任	松原、藤井寺、柏原、八尾、大和郡山
柴 田	渉外	河内長野、大和高田、橿原、御所、高取町、明日香村
西 田	渉外	香芝、三郷町、王寺町、斑鳩町、安堵町、平群町、葛城、桜井、広陵町、田原本町、上牧町、宇陀、河合町、天理、
寺澤	渉外	八尾
中 原	渉外	堺、東住吉、大阪市内
ネリーサ 今西	事務	
須藤・中道	情報	

※今年度は、人口の多い八尾と、通いやすい東住吉も重点地域として案内をかける。

【入試対策部としてやるべきこと】

☆中学・塾の先生に在校生の日々の様子や成績、クラブ、進学希望などを小まめに伝える事で、丁寧な指導や、きっちり見ている事をアピールし、太子の良さを知ってもらい、多くの保護者や生徒に案内してもらう。

☆説明会、ブースを通じて、多くの保護者・生徒に案内をかけて、上宮太子を見に行ってみようと思わせる。

☆外部説明会のブースや個別相談に於いて、保護者には生活面と進路指導面、大学進学実績を伝え、安心して高校生活を過ごせることを強調する。生徒には、上宮太子での高校生活の楽しさをアピールし学校見学やオープンキャンパス、入試説明会で太子に来てもらえるように勧める。

（今の外部ブースでのあり方で、先生方の仲の良さや、先生の生徒に対する熱い思い、学校生活の楽しさは十分伝わっている。他校の先生からもよく言われる。）すぐに受験してもらえるような魔法はない。本当に丁寧に気持ちを込めて回るだけ。

☆中学校や塾で開催している説明会に呼んでもらう。出前授業の案内や、学年単位の学校見学を行事に入れてもらう。

【上宮太子として何をすべきか】

上宮太子に興味を持ってくれる生徒はたくさんいる。保護者、塾および中学の先生からの信頼も厚い。太子なら任せて預けられると言ってくれる。また、クラブ応援の成果もでている！

しかし、生徒は太子に来ると、すごく気に入ってくれるが、後日他校を見学されると、比べて負けてしまう。太子に来た時に、どれだけ本気の専願にさせるか、どう繋ぎ止めるかが重要！

目標：入学者数 200!とすると、最低でも募集人数175は専願で確保

今は、中学校の先生や塾の先生からの上宮太子に対する信頼は厚い。上宮太子に興味を持っている生徒も多い今がチャンス！

☆1000 人の校内に足を運んでくれた生徒・保護者に対して

感動を与えることで、上宮太子に入学したいと思わせる。そのためには先輩の一言や先生の笑顔が力を発揮する。全員で取り組むこと。

☆在校生に対して

生徒の満足度、先生への生徒からの信頼度を上げる。お金のかからないサービスもある。先生からの笑顔で挨拶が大事。また明日も学校に来ようと思わせる雰囲気作りが大事。入試対策部と各部署が連携を取り合って、一つになって取り組んでいく。

iii 進路関係

【現役大学合格者数】

卒業生数が35名増加したが、全体の合格数は18しか増加せず。昨年度あたりから、生徒一人あたり、併願する大学数が減ってきている事に加え、今年度は早期に決まる総合型選抜の受験者が圧倒的に増えた事が大きい。また、久々に2名の就職者も出たが、私立大学については私立8大学を目指す上位層においては、全体的に一般入試まで頑張れる成績層の生徒が少なかった印象である。

今年度のべ415（卒業生数183）、昨年度のべ397（卒業生数148）、一昨年度のべ508（卒業生数176）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、合格数は6減少したが、特進Ⅰ類コースの在籍数が6名減（25→19）であった事に加え、低学年次での成績に大きな不安のあった学年だった事も加味すると、最後によく粘って合格を勝ち取ったと思う。難関国公立大学の合格を勝ち取った生徒もあり、非常に頑張った印象である。

国公立大学合格者数：今年度12（現役11）うち国公立大7（現役6）

昨年度17（現役17）うち、国立大14（現役14）

昨年の卒業生の国公立大合格数は特進Ⅰ類コースの60%を超えており（25名中16名）、国公立大合格率は過去最高であったが、今年度も5年連続で50%を超える結果を出してくれた。（19名中10名）また、特進Ⅱ類コースから大阪公立大学の合格者が出た事も特筆すべき内容であった。

○私立大学（関西8私大）

全体の数で見ると、非常に厳しい結果であった。7年連続で100名を突破していたが、今年度は60（現役55）と約半分に減少した。関西8私大の入試については、今年度も特進Ⅰ類・Ⅱ類コースを中心に精力的に受験したが、関関同立は20と健闘した一方、近畿大と龍谷大の合格者を大きく減らす結果となった。特に、特進Ⅱ類、総合進学ともに成績上位層が指定校推薦入試を積極的に利用したことや、特進Ⅰ類の成績上位層の生徒に複数名の体調不良者が出た事で、国公立大学併願での合格数の上積みが得られなかった事が主要な要因と考えられる。また、低学年時より弱点であった英語への苦手意識を克服できなかった事で、一定のラインに到達できなかった生徒が非常に多かった印象がある。

関西8私大合格者数

2025年度 60名（関西13・関西学院4・同志社1・立命館2・近畿29・龍谷11）

2024年度 105名（関西11・関西学院3・同志社3・近畿63・龍谷25）

2023年度 155名（関西17・関西学院4・同志社7・立命館5・京産18・近畿70・龍谷31・甲南3）

2022年度 123名（関西13・関西学院4・同志社1・立命館1・京産12・近畿73・龍谷19）

2021年度 108名（関西5・関西学院4・立命館3・京産4・近畿85・龍谷7）

○35期生の進学状況(卒業生数183名)

4年制(6年制)大学進学者数…164名 短期大学・短期大学部進学者数…4名

専門学校進学者数…9名 就職…2名

進路未決定…4名【内訳:総合進学理系1名(再挑戦)、特進Ⅱ類理系1名(大和大学合格も、再挑戦)

特進Ⅰ類文系1名、理系1名(それぞれ、四天王寺大学、国公立香川大学合格も再挑戦)】

現役合格率99.4%(昨年度100.0%)、現役進学率97.8%(昨年度99.3%)

(注:現役合格率、進学率の分母は進学希望者数。今年度は181名)

連携・指定校推薦入試枠873名分のうち、受験者数41名(総合進学・特進Ⅱ類コース在籍者の25.0%)

※昨年度と比較して、学力に自信がない層を中心に、私立大学の総合型選抜で受験を終える生徒が非常に多かった。連携・指定校推薦入試利用者(受験者)数は同数。「年内で進学先を決めたい」という全国的な傾向が本校にも現れている。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠821名分中、利用者(受験者)数は41名(総合進学コース・特進Ⅱ類コース在籍者の33.3%)

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRや総合的な探究の時間を通して、自分を知り、興味付けを行い、大学・学部・学科についてしっかりと調べる時間を取ることで、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。また、総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、スタディサプリの積極的な利用による中学内容の復習を行い、しっかりした基礎学力をつけることで、指定校推薦だけでなく、公募制推薦入試や一般入試にどんどんチャレンジし、第一志望の大学進学をめざすように指導している。

また、引き続き、今まで教員側のスキルアップのシステム構築を大きなテーマとして取り組んでいる。これまで、新課程への対応や若手教員の授業改善、また、進路指導部と教科・学年との連携を密にすることを重点的に意識して取り組んできた。さらに、授業形態の「アクティブラーニング」への移行を積極的に行いつつ、今年度からは専門チームを動かし始めた「探究活動」を軸として、新たな取り組みを上積みしていきたい。

教員がスキルアップすることで、生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来に明るい要素を見出す事ができる。今だけではなく、先を見据えた取り組みを、今後も継続していきたいと考えている。

○令和7年度に取り組む内容(重点目標)

・進路指導部内に専門の探究チームを新たに創設し、今までにできなかった社会とのつながりをより意識した実践的な探究活動への改革を図る。

- ・全コースの基礎学力向上(全学導入したスタディサプリの有効活用)、教科・学年との連携強化
- ・キャリアナビ(Benesse)の活用による、3年間を通した統一した進路指導
- ・GPS-Academic(中高生版)を用いた、生徒の非認知能力を評価するアプローチ
- ・自習教室利用・家庭学習の推進(スタディサプリの活用促進)
- ・模試の分析および事前・事後指導による生徒個別の適切な指導
- ・教員研修を日々の教育活動に落とし込むことで、教員の意識改革および授業改善をはかる

■上宮太子高等学校 令和7年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数183名) 【確定版】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
広島大	1	1	0	0	1	1
信州大	1	1	0	0	1	1
鳥取大	1	1	0	0	1	1
鳥取大	1	1	0	0	1	1
香川大	1	1	0	0	1	1
徳島大	1	1	0	0	1	1
弘前大	0	0	1	1	1	1
国立大計	6	6	1	1	7	7
公立大学						
大阪公立大	1	1	0	0	1	1
滋賀県立大	1	1	0	0	1	1
秋田県立大	1	1	0	0	1	1
青森県立保健大	1	1	0	0	1	1
長崎県立大	1	1	0	0	1	1
公立大計	5	5	0	0	5	5
国公立大計	11	11	1	1	12	12

関西圏 主要私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	13	9	0	0	13	9
関西学院大	4	3	0	0	4	3
同志社大	1	1	0	0	1	1
立命館大	2	2	0	0	2	2
関関同立計	20	15	0	0	20	15
産近甲龍						
近畿大	25	19	4	1	29	20
龍谷大	10	4	1	1	11	5
産近甲龍計	35	23	5	2	40	25

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関西女子短	1	1	0	0	1	1
大手前短	1	1	0	0	1	1
大阪キリスト教短	1	1	0	0	1	1
夕陽丘学園短	0	0	1	1	1	1
短期大学計	3	3	1	1	4	4

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
環正社国際医療スポーツ専	1	1	0	0	1	1
辻調理師専門学校	1	1	0	0	1	1
その他専門学校計	10	10	0	0	10	10
専門学校等計	12	12	0	0	12	12

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
明治大	0	0	1	1	1	1
東京農大	3	1	0	0	3	1
関西外国語大	13	5	0	0	13	5
大阪経済大	11	5	0	0	11	5
大阪工業大	14	12	0	0	14	12
佛教大	2	2	0	0	2	2
畿央大	7	1	0	0	7	1
摂南大	55	22	0	0	55	22
造手門学院大	52	14	0	0	52	14
桃山学院大	30	15	0	0	30	15
大和大	7	3	0	0	7	3
同志社女子大	2	1	0	0	2	1
武庫川女子大	3	3	0	0	3	3
大阪樟蔭女子大	2	2	1	1	3	3
京都光華女子大	15	1	0	0	15	1
森ノ宮医療大	5	5	3	1	8	6
大阪物産大	1	1	0	0	1	1
大阪芸術大	1	1	0	0	1	1
京都芸術大	1	1	0	0	1	1
天理大	5	2	0	0	5	2
帝塚山大	17	6	0	0	17	6
帝塚山学院大	5	3	0	0	5	3
大阪産業大	2	2	0	0	2	2
大阪電気通信大	8	4	0	0	8	4
大阪体育大	2	2	0	0	2	2
大阪経済法科大	5	3	0	0	5	3
大阪大谷大	8	7	0	0	8	7
四天王寺大	32	23	0	0	32	23
阪南大	19	7	0	0	19	7
羽衣国際大	1	1	0	0	1	1
関西福祉科学大	2	2	0	0	2	2
大阪保健医療大	1	1	0	0	1	1
太成学院大	2	2	0	0	2	2
大阪常盤会大	1	1	0	0	1	1
大阪総合保育大	2	2	0	0	2	2
奈良大	1	1	0	0	1	1
日本経済大	1	1	0	0	1	1
宝塚大	1	1	0	0	1	1
東海大	4	1	0	0	4	1
長浜バイオ大	2	1	0	0	2	1
岡山理科大	1	1	0	0	1	1
その他の私立大学計	346	169	5	3	351	172
私立大学計	404	210	11	6	415	216

iv 施設等整備関係

- ・校舎本館の外壁補修・屋上防水工事(4期分/4期)
- ・普通教室エアコン入れ替え
- ・普通教室床張り替え
- ・I号館1F北側男性用トイレ改修
- ・全館防犯カメラ更新
- ・体育館舞台照明更新
- ・体育館漏水補習

v 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪工業大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また昨年同様、近畿大学経済学部、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③ 教職員研修会

昨年度同様、教職員の幅広いスキル向上のための多くの講師先生をお招きして、校内研修会を開催することができた。

第1回教職員研修会

7月 3日(水)「教職員の皆様がこれから役立つ金融に関してのお話」 石橋 資久先生

第2回教職員研修会

11月27日(水)「人と人とを結ぶICTの活用～聴こえない私がマイクロソフトで挑戦したこと～」

稲葉通太先生

第3回教職員研修会

3月 3日(月)「職場におけるハラスメント防止に向けて」 弁護士 間野泰治先生

④ 特筆すべき行事

【海外語学研修】

<フィリピンセブ島語学研修>3月下旬～4月上旬 対象:1～2年生 希望者

今年度は、オーストラリアでの語学研修に代わる取り組みとして、フィリピンセブ島への語学研修を実施した。参加者は28名で、英語に集中して取り組む学習プログラムに加え、現地の孤児院や教会を訪問してフィリピンの生活や文化を直接体験することができた。学習面および異文化交流の両面において、非常に充実した語学研修となった。

<イギリス語学研修(ACEプログラム)>7月下旬～8月上旬 対象:1～3年生 希望制【今年度実施なし】

資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

<カナダ語学研修>7月下旬～8月中旬 対象:1～3年生 希望制【今年度実施なし】

自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修である。

<ニュージーランド ターム留学>7月下旬～9月下旬 対象:1～3年生 希望者【今年度実施なし】

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

<オーストラリア語学研修>3月下旬～4月上旬 対象:1～2年生 希望者【今年度実施なし】

【修学旅行】

2年生の修学旅行は、12月3日(火)～7日(土)の4泊5日の行程で、関東方面(都内・東京ディズニーランド)と北海道方面(札幌・小樽)へ無事に実施できた。

【聖徳書道展】

令和6年度で17回目の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただき、令和6年度は約4000点の応募作品を得た。本校体育館の壁面に入賞作品を展示の上、「書のパフォーマンス」「表彰式」を行った。10月6日(日)に開催し、775名(昨年比+87名)の参加があった。

vi 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部:11、文化部:9(令和7年3月現在)

約8割の生徒がクラブに所属(80.4%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

② 部活動の主な成績

硬式野球部

令和6年度 秋季近畿地区高校野球大会大阪府予選 ベスト8

サッカー部

高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2024 OSAKA 4部 中河内・南河内ブロック

上位リーグ グループ5位

陸上競技部

第79回 大阪高等学校総合体育大会 円盤投げ 本大会出場 福地 隆宏(2年)

硬式テニス部

第33回 阪南地区高校テニストーナメント 予選ブロック 優勝 三浦 功(2年)

第8回 とんぼCUPテニス大会 5位入賞 松下 優羽(2年)

書道部

第58回 高野山競書大会 <高野山総長賞> 杉山 遥輝(3年)

第33回 国際高校生選抜書展 <入選> 瀬尾 虹帆(1年)

吹奏楽・コーラス部

管弦打楽器ソロコンテスト 大阪狭山大会・本選 <銀賞> 前野 愛羽(2年)

総合探究部

第21回 大阪府中・高等学校将棋選手権 夏季大会 個人戦C級3位 中原 維吹(2年)

第44回 NHK杯争奪大阪府中・高等学校将棋選手権大会 個人戦C級 優勝

鎌田 拓未(1年)

軽音楽部

J:COM Presents 高校軽音フェスティバル 2024 本選 出場

vii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

エマージョンクッキー2日分 おいしいごはん2日分 飲料水500ml2本
簡易トイレカプセル5回分 小箱

viii その他

①今年度の体育大会は6月に開催し、保護者の来校も許可して実施をした。

4年ぶりに応援合戦も復活することができ、コロナ前の元の形に戻すことができた。

上宮祭(文化祭)に関しても、4年ぶりとなる学校開催となり、2日型でおこなった。

来校者、受験生の参加も多く、飲食店も復活することができた。

②生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。

(令和6年度の活動実績)

生活委員会	生徒指導部と連携(啓発活動等)
保健委員会	保健室と連携(尿検査や総合検診の補助)
放送委員会	昼休みの放送・式典時の機器操作補助
図書委員会	図書室の運営(貸し借り手続き、図書整理など)